

▼東海

歩こう会ウォーキング

古代名古屋の海岸線を歩く

郡 修児(TVA)

「歩こう会」秋のウォーキングは12月12日、名古屋市南部の笠寺界隈を歩きました。当日は青空の広がる、まずまずのウォーキング日和。午前10時、名古屋市営地下鉄・鶴里駅に集まった参加者は7人、このところ参加者が34人と振るわなかっただけに、心強いスタートとなりました。

まず目指したのは、南区貝塚町にある桜田八幡社。宇佐神宮から分祀された由緒のある神社で、境内には高市連黒人(たけちのむらじくろひと)が万葉集に詠んだ年魚市潟(あゆちがた)の碑が建てられています。

桜田部 鶴鳴渡 年魚市方

塩千二家良之 鶴鳴渡

(あゆち潟は潮が引いたらしい鶴が潮騒で一声鳴いて東の空に舞い上がるうとしている)

この千潟は名古屋市の熱田区(南区)にかけての伊勢湾の海岸沿いにあったもので、万葉集では歌枕として読まれており、「あゆ

ち」が「あいち」に変化し、現在の「愛知県」の県名の由来になりました。この海岸線の道が熱田「宮の渡し」に続く旧東海道です。

八幡社を南へ約500m、名古屋の代表的な古代遺跡である見晴台遺跡が都市公園「笠寺公園」として整備されています。標高20mほどある平坦な高台で、伊勢湾に向かって南に大きく開けており、古代人も素晴らしい眺望を楽しんだのではないかと想像させるような土地です。



見晴台遺跡

約2万年前の旧石器時代から古代、中世、近世、そして太平洋戦争中の高射砲陣地跡まで、きわめて長い期間にわたって人々の暮らしの跡が残されている典型

的な「複合遺跡」。弥生時代後期の集落の周りには二重に環濠が掘られ、竪穴式住居が200軒以上ありました。

公園内には、考古資料館と竪穴式住居を再現した施設が設けられており、多くの出土品が展示されています。余談ですが、「お城博士」として有名な千田嘉博 名古屋市立大学教授が、かつて学芸員として勤務していました。最後に訪れたのは、名古屋四観音のひとつである笠寺観音を本尊とする天林山笠覆寺。



笠覆寺(りゅうふくじ)

笠寺公園から西へ約300m、谷を隔てた場所にあり、天平5年(733)建立の真言宗の名刹です。天文18年(1549)、織田家の人質となっていた幼い徳川家康

が今川方の人質であった織田信長の兄と、この寺で交換されたり、寛永7年(1630)には尾張徳川家 剣術指南役に就くことを願った宮本武蔵が塔頭に逗留したとのエピソードも残されており、境内にはそれを記念する石碑が建てられています。



宮本武蔵の碑(左)と人質交換の碑

ただ、武蔵は三千石の高禄を望んだため就活に失敗、九州に去ったといわれます。

古代から現代まで、名古屋の知られざる歴史を学ぶウォーキングの終点は、旧東海道沿いにある鄙びた昭和レトロな食堂。味噌煮込みのようなラーメン定食とビールを一同で堪能(?)、頭も体も充実した一日でした。